



間中の桜並木を思川旧河道跡に設けられた水田の下流側から見る。間中。2024/04/15

田園環境都市おやまビジョンづくりに向けた  
小山市11地区の風土性調査  
報告レポート「基礎資料・概要版」

#### 穂積地区の風土性調査について

「風土」とは、地域の自然に対して人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のこと<sup>\*1</sup>を言います。人々が生きる環境、それは私たちの身近な世界、生活世界のこと<sup>\*2</sup>でもあります。

地域の風土(生活世界)を、あらためて把握するために、

- ①地理学や民俗学的な視点で地域を見て歩く「踏査」(現地調査)
- ②アンケートや聞き取りを行う簡易社会調査
- ③小山市史や研究論文などにあたる文献調査

これらを組み合わせた風土性調査を実施しています。

穂積地区は令和6年5月から令和6年7月の期間に調査を行いました。

この概要版は、その調査成果の報告書「穂積地区 基礎資料」から主なトピックを抜粋し、一部に加筆を加えたものです。報告書の完全版(A4版72ページ)やアンケート集計結果報告書(同・37ページ)は、最後に紹介するリンクから閲覧ができます。

\*註1：出典 藺田稔編『神道』(弘文堂、1988年)

\*註2：出典 アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(筑摩書房、2015年)

# 1 | 穂積地区の概況

## 小山市の基本地形と穂積地区の位置

西から思川低地、宝木(たからぎ)台地、鬼怒川低地が並び、宝木台地の東を鬼怒川、西を思川が流れています。穂積地区は小山市の中部から西寄りに位置し、思川低地上に立地しています。



出展 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gis.go.jp/> (廣瀬改変2024年)

小山市中部から西よりに位置し、地名に国府と付く二つの集落と、小山氏が建てた城館や寺院を擁する。

穂積地区は、明治22年(1889)に上国府塚・下国府塚・上石塚・下石塚・萩島・大行寺・石ノ上・塩沢・間中の9村が合併した穂積村をもととします。地区の面積13.00km<sup>2</sup>は市の面積の約7.6%、人口3,873人は市の人口の約2.3%を占めます(令和6年4月1日現在。「小山市統計年報 令和6年度版」より)。古代の律令国家は、同じ思川低地の北側、現在の栃木市田村町に下野国府を置きました。穂積地区には、上国府塚、下国府塚と、地名に国府と付く二つの集落があり、国府が領主交代や水害などの影響から順次移動していた可能性も指摘されます。中世には、藤原秀郷の後裔に当たる小山氏が、城館である石塚館や等覚院観音寺などを建てました。近世には、清水坂下から大行寺へ渡る思川の渡船場から佐野道と栃木道が分かれるなど、五街道追分の地といわれた小山宿の対岸にあって交通上重要な役割を果たしました。また、かつては主として思川の河原に桑園がつくられ、間中に養蚕の設えを持つ家屋が残るなど、さまざまな歴史的要素が地区の景観を少しずつ特徴づけています。

## 2 | 二筋の街道と二ヶ所の渡船場

思川は水運に使われましたが、穂積地区には河岸がなく、渡船場が大行寺と塩沢にありました。小山宿の対岸に当たる大行寺からは、佐野道と栃木道が分かれました。塩沢の渡船場は、地区の日常的な生業と広域の物流に用いられました。



大行寺の渡船場跡付近を市役所から見下ろす。2022/10/26



塩沢の渡船場跡付近を石ノ上橋から見る。2021/10/06

二ヶ所の渡船場が、農作業から  
広域の交通・物流までに対応し、  
思川の東岸と西岸を結んだ。

佐野道は、小山方面から榎本、佐野、足利、上州方面へ抜ける道で、近世後期には太平山への参詣道としてよく用いられました。栃木道は、立木、松沼、卒島を経て例幣使街道の栃木宿に至る道で、栃木への最短距離を結びました。一方、江戸幕府は、主立った河川には架橋を行わず、川を渡る方法を歩渡り(かちわたり)や渡船に制限し、渡る場に関所機能を持たせて交通を統御しました。こうした渡船場が、穂積地区には大行寺と塩沢の2ヶ所に設けられました。近世中期以降、水戸浜(那珂湊、大洗の磯浜を指す)、銚子浦などからの鮮魚の需要が内陸部である佐野、足利、上州へと広がり、現在の小山市域では絹地区の福良と中地区の大川島に荷物を順次継ぎ送る拠点、継立場が置かれました。大行寺と塩沢村の渡船場は、共に鮮魚の輸送にも用いられました。この他、農作業のために人や馬を渡す用途などもありました。広域的に見た位置や陸地の形状、河川の流況などの条件が揃って、両地点への渡船場の設置が認可されたことは、何らか今後の土地利用の参考にできると考えられます。

### 3 | 思川沿いに発達した微高地と河原の利用

穂積地区では、旧村が思川沿いにあるか、同川から離れた地区西部の低湿地にあるかによって土地の利用の仕方が違ってきます。思川沿いには、水流に運ばれた土砂がたまってできる微高地、自然堤防が発達し、家屋の他には畑が作られました。また、近代に入ると、主として思川の河原に桑園が設けられました。一方、地区西部の低湿地に囲まれた村々では、当初から水田稲作中心の農業が行われてきています。



間中に残る蚕室を持つ養蚕農家の群。気抜きを分けた例(写真左)と棟に沿って長く設けた例(同右)



写真は左右共、棟に沿って長く気抜きを設けた例である(写真左の画面左手に写る木はクワ)。いずれの写真も2024/07/22撮影

穂積地区では、近代に入り、養蚕や蚕種業、木綿織物業が展開しました。思川の川辺に広がる河原は、冠水と著しい乾燥という両極端な状態への頻繁な変化から病虫害の発生が抑えられたことがあって、桑園とされました。『小山市史通史編III 近現代』416頁に載る明治26年(1893)から大正元年(1912)にかけての蚕種製造枚数の変遷を見ると、市内第1位の生井村で明治34年(1901)に大幅に減少し、第2位の絹村では明治41年(1908)から大正元年にかけて微減しているのに対し、穂積村では明治26年から同31年(1898)にかけて2,970枚減った後、大正元年までに11,123枚増えています。間中には、主屋の2階を蚕室とした養蚕農家がまとまって残りますが、2階蚕室には、蚕のために暖をとる際の排煙用に開口部、気抜きが設けられましたが、気抜きを分割して設けた例と連続して設けた例が見られます。



写真は、思川右岸堤防を写したもので、画面右手の木々が繁る範囲が思川の河原に当たります。2024年7月22日に実施した現地調査では、オニグルミなどに混じってクワ(ヤマグワかマグワか。またはこれらの交雑種ないしは改良品種かなど、種類については不明)が生えていることを確認しました。当地の河原や畑の傍らに生えるクワは、上に写真を載せた養蚕農家と共に、地区の歴史的要素に数えられます。

## 4 | 穂積地区での暮らしと意識

前半で概況を紹介したような地形や都市の形成の歴史の上に、人々はどんな意識でどのような暮らしを営んでいるのでしょうか。穂積自治会のご協力で6月から7月にかけて自治会回覧などを通してアンケートを配布し、紙での回答、インターネット上での回答あわせて436名から回答をいただきました。また、自治会リーダーの方々、農業者の方々、子育て世代の方々を対象にグループインタビューを実施し16名にご協力をいただきました。その成果から一部を抜粋し、この章では住民の方々の声も交えながら紹介します。

### 4-1 アンケート調査からの報告

アンケートの設問【1】【2】の集計結果をもとに、穂積地区で暮らす人々の①出身地、移り住んだ経緯や理由、②生活圏、③地域資源への認知度・関心度についてまとめました。

#### ① 回答者の出身地



他に無記入・無効計54名

自治会の回覧を通してのアンケートでは、地元出身の方のご回答が多くなりますが、穂積地区でも回答者の6割近い方が穂積地区で生まれた方でした。地区外から移り住んだ方の理由は、記載されたコメントによると、①実家や親との関係で ②結婚を機に ③仕事の関係で・・・という理由が上位を占めています。

#### ② 生活圏

以下の3種類の行動で出かける地域を訪ねた質問の回答、上位3地域を示します。休みの日についての問いは2つ選択可としました。この結果からは、穂積地区では、普段の生活においても休日の行動においても、穂積地区から車での移動においては気軽に行ける範囲である小山地区（駅西）と小山地区（駅東）エリアを生活圏としている人が非常に多いことがわかります。

日常的 買い物・・・	1 小山地区（駅西）	193名
	2 小山地区（駅東）	92名
	3 間々田地区	23名
休日の特別な 買い物や食事など	1 小山地区（駅東）	184名
	2 小山地区（駅西）	178名
	3 宇都宮市	77名
休日の自然の中 などでの余暇	1 栃木県内*	79名
	2 栃木市	77名
	3 小山地区（駅西）	74名

\*栃木県内：選択肢に挙げている栃木市と野木町以外の市町

#### ③ 地域資源への認知度・関心度

農業に対する認知度は、他の田園部と同様に、市街化が進む地区よりも高い傾向にあります。穂積地区では、他の田園部と比べ、歴史的資源より自然環境への認知度、関心度が（若干の差ですが）高いという特徴があります。

##### 1 地区の歴史や史跡、寺社、祭りなどを……

知っている				知らない			
40%				57%			
よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
5%	35%	47%	10%	8%	43%	38%	7%

##### 2 公園、街路樹、平地林などまちなかに残る自然を……

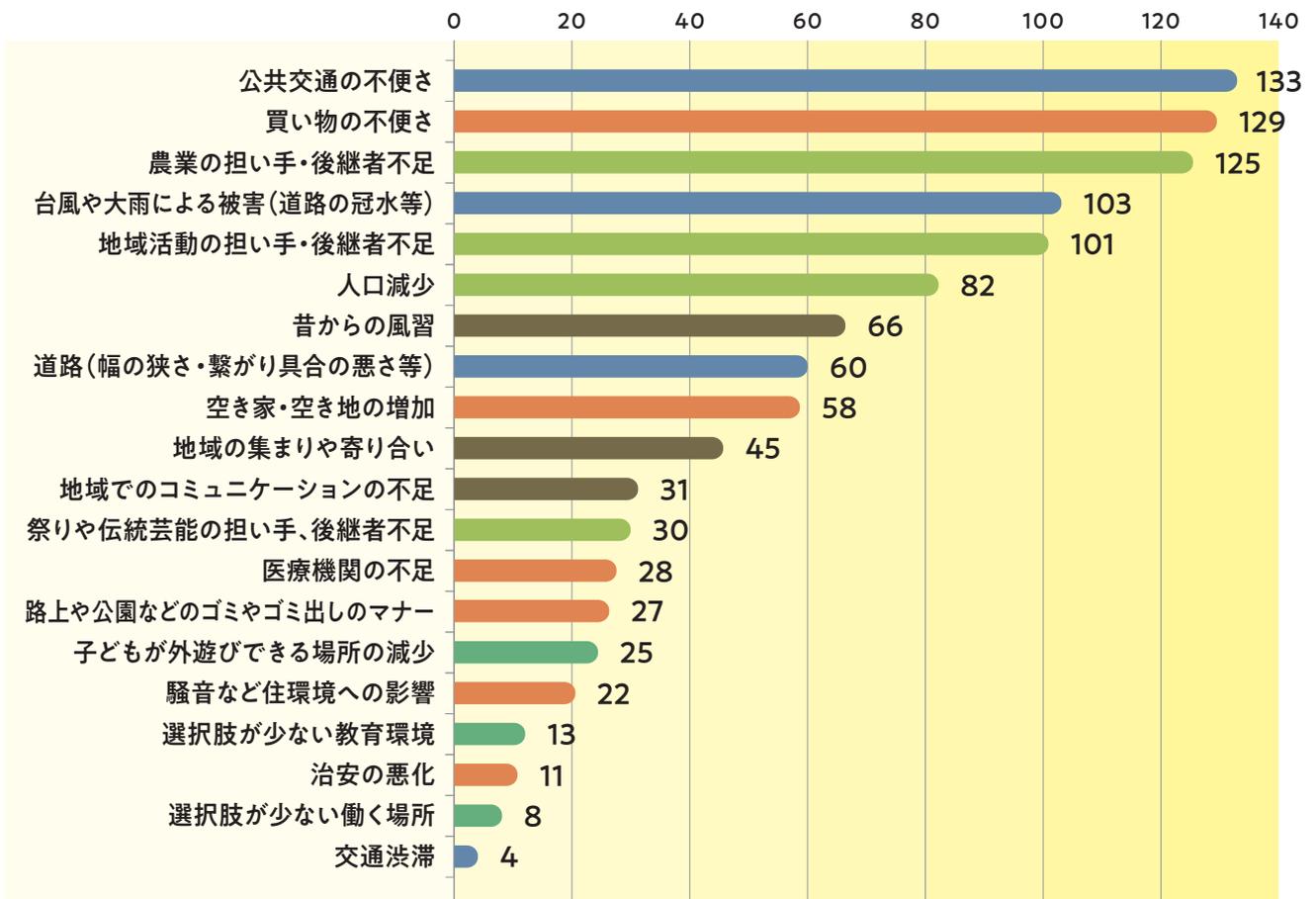
知っている				知らない			
45%				51%			
よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
8%	37%	44%	7%	12%	47%	31%	6%

##### 3 地区で行われている農業について……

知っている				知らない			
62%				35%			
よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
17%	45%	29%	6%	14%	44%	31%	7%

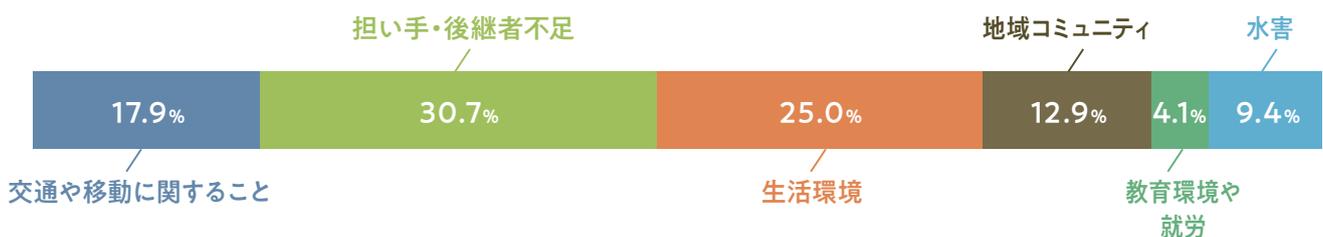
## 4-2 無くしたい、解消したい、穂積地区の困りごと

アンケートの設問【4】で「無くしたい、解消したい、解決したい困りごとは、何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました



数字は回答者数。その他5名、無記入55名。

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……。



### 生活の利便性の向上を願う

選択肢を6つの領域別に見た割合は、横に長いグラフの通りですが、選択肢の項目別に見る棒グラフでは、隣接する田園部の中地区と同様に「公共交通の不便さ」「買い物の不便さ」「農業の担い手不足」が上位となっており、いずれも125人を超え、回答者の35%を上回る人が選択しています。次いで、100名を超える人が選択した水害(台風や大雨による被害)が4番目に上がっています。次に自由記述に寄せられたコメントを紹介します。

小学校開設の歴史：風土性調査報告「穂積地区 基礎資料」(II踏査及び文献調査による報告)より。

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
国府塚学校	明治6年09月02日	下国府塚村 興永寺	60人 <small>※学区に上河原田村・下河原田村・小袋村・井岡村を含む</small>
国府塚学校 間中村分校	明治6年12月09日	間中村 東光院 <small>※廃寺跡</small>	75人
国府塚学校 大行寺村分校	明治7年08月01日	大行寺村 神宮寺 <small>※廃寺跡</small>	39人

小学校設立一覧 (穂積地区)。 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年(1873)に全国で小学校の設立が本格化。  
 「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を採り(中略)小山市域に設立された小学校のほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。  
穂積地区では、下国府塚※、間中、大行寺に。

穂積地区の解消したい困りごとについて、アンケートの設問【4】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

田園環境を守っていくには、  
 まずは高齢化対策に  
 取り組むべきだと考えます

#### 生活環境の利便性の低さ

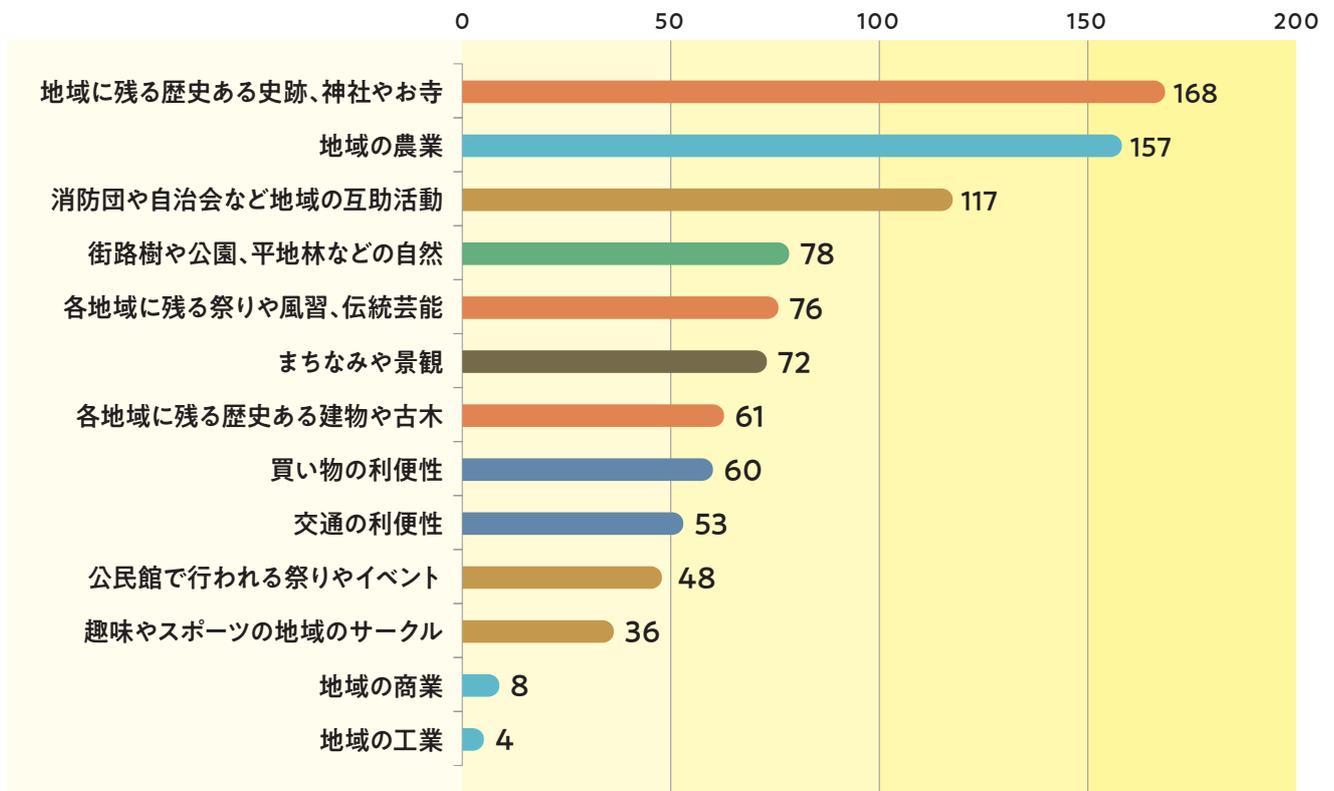
- 穂積地区にはスーパーがないので、高齢者には困る。小さい個人病院ではなくある程度総合的に診てくれる医療機関があってほしい
- 高齢者が増えて免許返納も考えている人がたくさんいるのに、それを補う交通利便性がまったくない。利便性がないと住みたいと思えなくなるから、子どもたちは離れた場所で生活したくなる

#### 農業・地域活動の担い手・人口減少・後継者不足

- 農地の放棄地や空き家は今後どうするのか？
- 農地の維持管理ができないことと。火災時に消防車が入れないことを解消したい
- 離農による放棄地が増えている。農業を守る対策を真剣に考えていく必要がある
- 限界集落に近づいている状態に不安！
- 一人暮らしの老人が増えてきている
- うちの自治会もだんだん高齢化が進んで若い人が入ってこない(嫁さんが来ない)。後継者不足に不安を感じています
- 空き家は加速していくと思われ対策を考えて頂きたい
- 地域の人口減少のため、同じ人がいくつも役員を担当している
- 月～土まで仕事をしていて、日曜日に草刈りや缶ひろい等を企画されては休めない。お金はかかるがシルバー人材などを活用することも考えたい

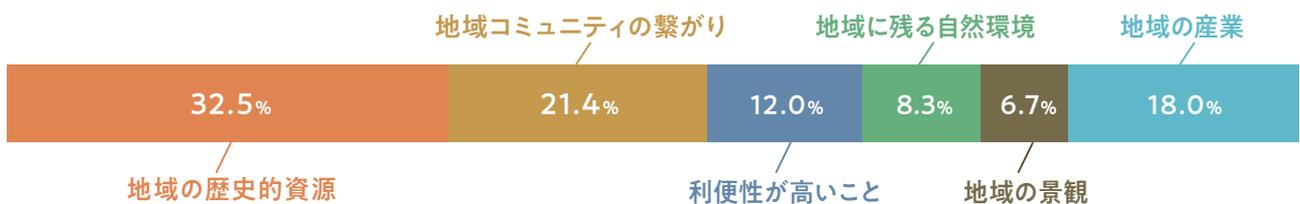
### 4-3 大切に守っていききたい、穂積地区の小さな自慢

アンケートの設問【5】で「大切に守っていききたい「小さな自慢」は何でしょうか?」と問い、聞き取りをもとに用意した選択肢から3つを選んでもらいました。



数字は回答者数。その他9名、無記入88名。

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を出してみると……



この設問の結果から、穂積地区の皆さんは、特に「先代が残してくれた地域の寺社、地域の農業、そして、地域の互助活動」を大切に守っていきたいと考えていることが見えてきます。アンケート集計報告書に記載した、年代別の結果では、母数が少ない20代30代を除いた全ての年代を通してこれらの項目が上位3つに挙げられており、世代による意識の差は見られない結果となっています。

穂積地区のなつみずたんぼ：風土性調査報告「穂積地区 基礎資料」(II踏査及び文献調査による報告)より。



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者がそれぞれ実施しています。

出典：小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-08-21 参照)

穂積地区の大切に守りたいことについて、アンケートの設問【5】に寄せられた自由記述から抜粋して紹介します。

子どもたちのために  
地区の祭りを開催(復活)してほしい！  
——アンケート【5】自由記述より

### 歴史的な地域資源、自然資源の保全と継承

- 穂積地区から、歴史ある建物や神社、史跡、農業を取ったら何も残らない
- 史跡、神社、お寺等に成り立ちや歴史の説明の看板等があると理解しやすいです
- 穂積地区の一寺が崩壊寸前である。美田を残したい
- 豊穂川沿いの桜並木
- 開発が先行し、自然や平地林が減少している
- 冬は北に那須山、西に日光山、南に富士山、東につくば山が見える。夏の週末は360° 花火が見える。初夏は凧が見える

### 地域のコミュニティの運営

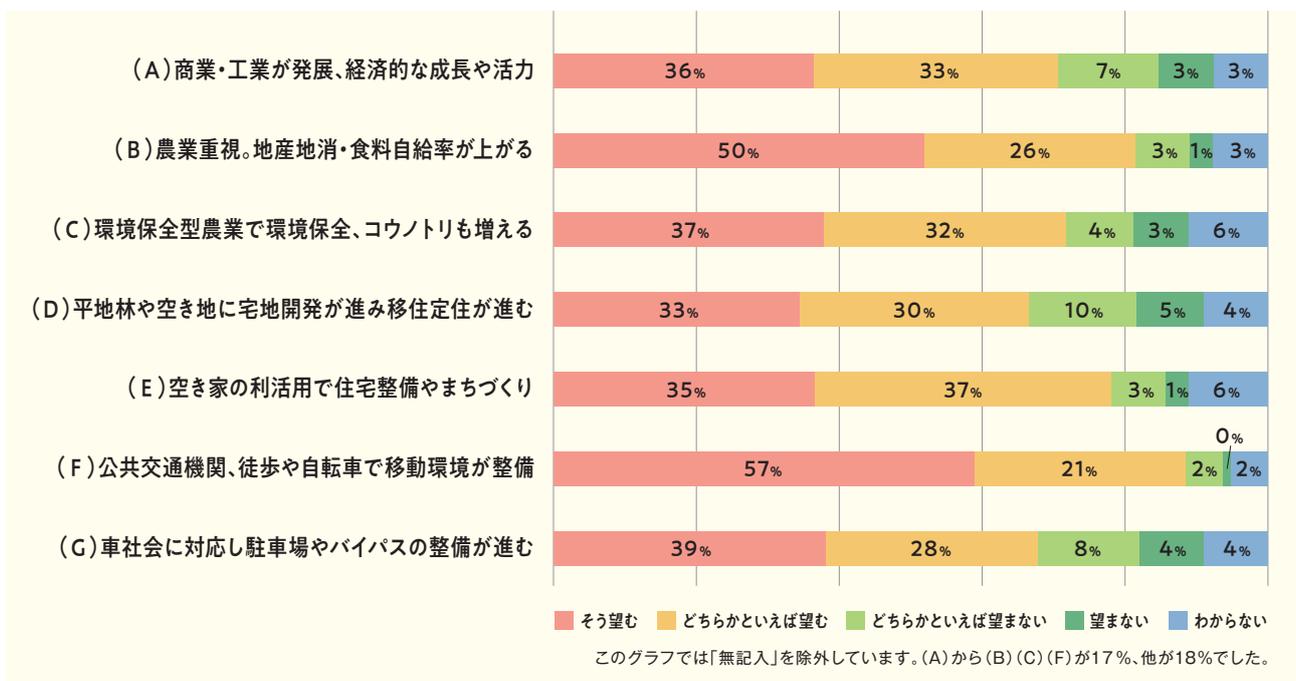
- 今後、人口減少がさらに進むので、地域の人々の助け合い、活性化と親睦がさらに大切になる
- 自治会で2か月に1回位年齢に関係無く住民が集まって色々なテーマで座談会を実施してみたい。探せば色々な問題があるはずだ！
- コロナ禍及び高齢化、少子化により地域活動が無くなり、かつ自治会が活動を中止しているため、ますます地域活動が無くなっている
- 穂積公民館祭りが行われましたが、盛況でした

### 地域の農業

- 農家も高齢化している。食料自給率の低い日本で農業を守っていく必要がある。イベント等で小山の農作物をどんどん季節ごとにアピールして、農業にかかわっていない方にも知らせることも必要
- 農地が荒れたら、イノシシやタヌキなどが多くなるので困る

## 5 | 田園環境と都市環境の調和がとれたまちづくりへ(1)

次に、アンケート集計結果より、「20年後、30年後の小山市の望ましい都市環境のあり方について」尋ねた【7】の結果を紹介します。例示した小山市の将来像7項目について、それぞれ「そう望む・どちらかと言えば望む・どちらかと言えば望まない・望まない・わからない」から選んでいただきました。穂積地区の皆さんからの、未来の小山市への視点です。



7項目の全文は、以下の通り。(A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市 (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている小山市 (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている小山市 (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える小山市 (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む小山市 (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む小山市 (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる小山市

### 田園地帯での共通性と穂積地区の特性

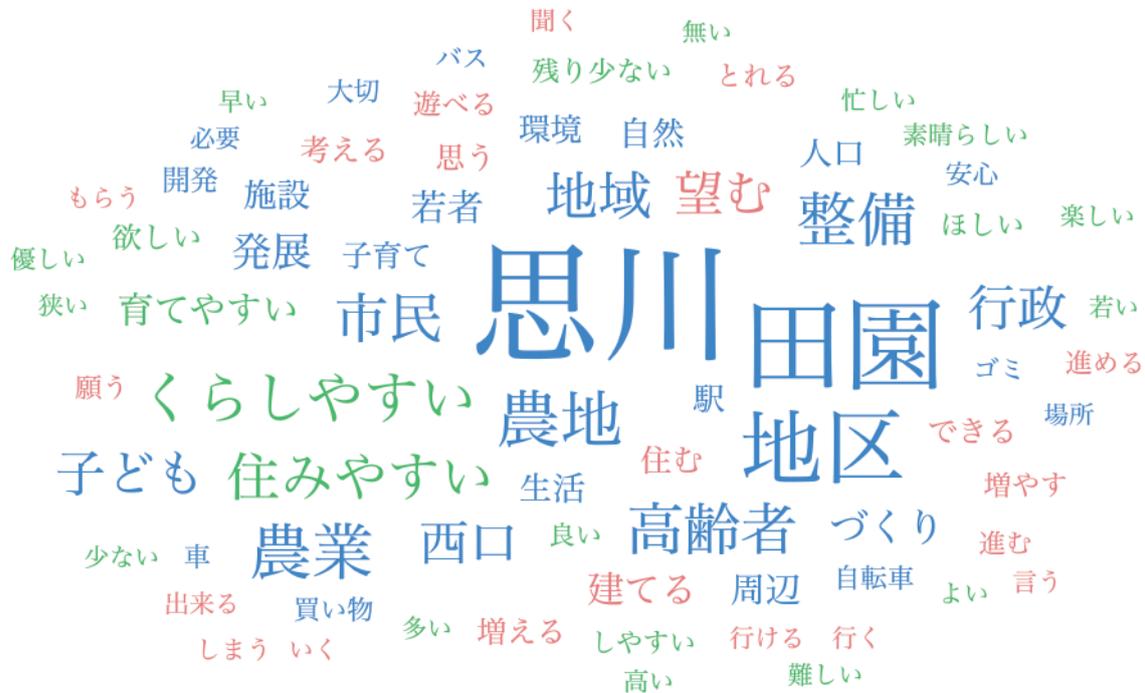
7つの項目を支持・共感者が多い順(「そう望む」「どちらかと言えば望む」の割合の合計が高い順)に並べると、穂積地区の結果は以下のようになります

- 1 78% (57) (F) 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 76% (50) (B) 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 72% (35) (E) 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む
- 4 69% (37) (C) 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 5 69% (36) (A) 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 6 67% (39) (G) 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 7 63% (33) (D) 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

都市部でも田園部でも上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ傾向が見られます。住宅を供給する方法としては、穂積地区では (D) 「空き地や平地林などに新しい宅地開発」という考えより、(E) 「空き家の改修や利活用」を支持する人が10%ほど上回っています。

## 6 | 田園環境と都市環境の調和が取れたまちづくりへ(2)

次に設問【7】の自由記述欄(30年後へのご意見)に寄せられたコメント全件で多用された言葉を紹介します。テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出です。基本的には語られた回数が多いもので大きく表示され、調査対象に特徴的に使用される固有の単語は重視される統計処理法が用いられています。一つの参考としてご覧ください。



アンケート調査【4】大切なもの【5】困りごと【7】未来の姿へのご意見8655字から抽出(※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析(<https://textmining.userlocal.jp/>))

### 望ましい穂積地区や小山市の未来の姿

設問【7】の自由記述欄に寄せられたご意見から一部を抜粋して紹介します。

**自然環境、平地林の保全** ●小山市は思川があり、景観が良い。この利点を活かし土手を整備して、自転車や徒歩で思川沿いを散策出来るようにしてほしい。各所にバスの停留所やレンタル自転車を配置してはどうか ●思川沿いの桜と菜の花の季節は本当に素晴らしい。もう少し宣伝に力を入れては？ 城山公園の木々(桜)を切ってしまったのは非常に残念。残す方法はあったと思う ●太陽光発電施設やモータープール施設の増加によって平地林等の自然が少なからず失われているのが残念である。思川左岸、市街地に面した河川段丘の保全を

**田園環境と都市環境の調和** ●商業工業の発展ばかりでなく、緑豊かな調和のとれた小山市に。地域のゴミ拾いは良い事だと思う。以前、他県の人にこの辺は(穂積地区)ゴミもおちてなくキレイと言われた事がある ●小山駅周辺の発展は良いことだと思います。その反面、農家の継ぎ手がなく、田畑が荒れ、あまりよくない部分も。穂積地区には市街化調整区域があり、簡単に家や店を建てたりできないところがある。私は自然を大切に思っているので、それ自体には賛成なのですが、であるならば、もっと農村地域への補助があると良いのでは？

**いつも子どもたちの声が聞こえる地区に** ●不便なところでは送迎などの負担が多く、そのため家があるのに便利な場所に移住する若い人達。子育てするのに住みたいと思う地域になって欲しい。今の環境を守りながら無駄なものを廃止し、若い人の意見を聞きながら！ ●子ども・孫たちが安心して生活していけるような社会をのぞみます

親子二世帯以上の生活が出来て、  
地区に子どもが増えるような、  
子どもの声がいっつも聞こえる時代がほしいです

—アンケート【7】自由記述より

## 7 | グループインタビューより：穂積地区の課題と未来への展望

穂積地区の風土性調査では、自治会長の方々、子育て世代の方々、農業従事者の方々の合計17名に、座談会形式のグループインタビューで聞き取り調査にご協力をいただきました。そこで語られた内容から、一部を抜粋して紹介します。

### 人口減少に伴う不安や課題

●子どもの数が減り、人口減少も進む地区では、ビジョンも、次世代を担う子どもたちが育たないと机上の空論になる。子育て世代に「ここで子育てをしたい」と選んでもらえる地区にしたい ●昔からの祭りや芸能の継続も課題。お囃子は、昔はどの地区にもあり、大人も子どももやっていた。今は、なくなったり、大人だけで練習し地区の夏祭りなどのみで披露するところも ●上石塚・等覚院の護摩焚きや、各自治会の寺での33年ごとに本尊のご開帳と稚児行列も地区の自慢。昔は子ども時代から観音様に遊びに行ったりして親しみもあるが、次の世代が継承してくれるかどうか。なんとか残したい

### 子どもを取り巻く環境

●昔は学校から帰ったら近所の子が集まってオタマジャクシを捕まえたり花の蜜を吸ったりして遊んでいたが、今は、近所の子どもも減ったし治安も心配なので、せいぜい自宅の庭で遊ぶくらい ●子どもの下校時刻に合わせて仕事の時間を決めている。もう少し働きたい ●ふらっと気軽に遊びに行ける公園が地区内にあると親子ともに助かる ●学校運営に対して穂積のおじいちゃんたちがとても協力的で、ありがたい。それがこの地区の強みの一つだと思う。小山市内のまちなかの子どもと、こちらの子どもと、交換留学などがあっても良いのでは？

### 穂積地区の農業

●米がおいしいのは土質の良さと豊富な地下水のおかげ ●経営の問題では米価は上がらず資材や機械の値上がりが続く。専業農家はとても厳しい状態。また兼業も他での収入を機械などの購入に当てねばならず、それも厳しい ●農業者は、同じ年代の他の職業と比べ、その年代なりの年収が得られない。そこを変えていかないと、若い人は農業を選択しない ●農業機械の大型化に伴い、道路の幅が現状のままでは、一般車と離合できない。田んぼの中の道でも、一般車が「寄せろ」「こっちを先に」と言う勢いだ ●農業機械のIT化なども早いスピードで進化している。基盤整備で、機械が使える環境を整えていく時代 ●穂積では若手も育っている。計画などを作るにあたってスムーズにいくのではないかと ●全児童対象の小学校での田んぼの学校は20年くらい続いている。田植えは昔ながらのやり方で、紐を張って間隔を整えてやっている。稲刈り後はハザがけし、大人が担当するコンバインまで子ども達が干した稲を運ぶ ●自分で育てた米を自分で食べる、貴重な体験。お礼の手紙に「これは一生忘れない」と書いてある。ずっと続けていくべきだと思う。

### コミュニティ

●ほとんどみんながお互いに顔見知り。どんな立場の人でも下の名前で呼び合う（屋号で呼び合っていた。宿や、籠や、下駄や、葡萄や） ●のどかで人もいい。文句ばかり言う人もいない。異動などで穂積に来た人も ●田んぼが始まるとカエルの合唱がうるさくて寝られないと言われたことはあるが、他の市街地などのように、トラクターで道路に泥が落ちるといった苦情が出ることもない

